

事業所名		こども発達サポートセンターの一と二				支援プログラム（参考様式）		作成日		7 年		3 月		20 日	
法人（事業所）理念		小さな成功体験は、大きな夢への第一歩 子どもたちが自分らしく将来を生きていくために、土台となるroot（根っこ）を育てる関わりを大切にしています。													
支援方針		多職種連携による専門的アプローチ…PT・OT・保育士が連携して、各専門職の視点からアセスメントし、小集団・個別での療育を提供します。 集中と切り替えのコントロールを促す環境設計…構造化された空間の中で子どもたちが安心して行動できる空間づくりを行っています。 情報共有による一貫性のある支援…家庭・保育園等・相談員と連携しより良い支援のための情報共有を行っています。													
営業時間		8 時		30 分から		17 時		30 分まで		送迎実施の有無		あり		なし	
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	生活習慣や生活リズムの形成支援…睡眠・食事の状況を保護者へ聞き取り、相談助言を行う。SSTの活動を通じて、生活スキルやマナーについての理解を深める。 生活スキルの獲得支援…生活のために必要な手指機能の向上、身だしなみ、衣類の調節や着脱などの、清潔動作についての支援を行う。 室内の構造化や視覚化されたスケジュールにより、時間・空間を分かりやすく伝える。													
	運動・感覚	基本的な姿勢・動作・運動機能の向上…基本的な動きの獲得に加え、応用的な動きを経験し筋力や体力を強化し運動機能の向上を図っていく。 ルールのある運動課題に取り組み、勝ち負けへのこだわりを軽減させていく。 保有する感覚の活用…感覚統合器具を用いて、感覚情報を統合し自分の身体や心をコントロールする力を養う。 感覚の特性への対応…運動を通して様々な動きの経験、感覚刺激を行うことで感覚の鈍麻・過敏の凸凹を軽減させていく。													
	認知・行動	認知の特性への理解…感覚刺激や感触など、ひとりひとりの好きな活動を保障する。 外的要因や刺激の入力に対する適切な反応や行動の習得…認知の偏りや特性に配慮し、できることを増やしていく。 室内の構造化や視覚化されたスケジュールにより、時間・空間を分かりやすく伝える。 物の概念形成（大小・長短・カテゴリ分けなど）見えない部分の補完など、認知機能の向上のための課題の提供。													
	言語 コミュニケーション	言語…言葉遊び（しりとり・想起など）を通して語彙の獲得や表現方法の獲得を支援する。 コミュニケーション…表情、声のトーン、聞く・話す順番や距離感など会話のルール 状況や相手の気持ちを理解するための支援（話し合い、意見を伝えあい													
	人間関係 社会性	アタッチメントの形成…信頼関係の構築と、安心できる環境設定の中で、受け入れられる経験を重ね、自分の気持ちを表出しても寄り添ってくれる存在がいることを実感できるよう支援していく。 あそびを通じた社会性の発達…動きや言動の模倣を通じて社会性の発達を支援する。 仲間づくりと集団への参加…スタッフが介入することで、周囲の人との関わり方を知る。見立て遊びなどで役割や順番などを理解し行動のコントロールが出来るような支援。 自分の得意なことや好きなこと、苦手や嫌いなことを知り、できる時できない時によらず、自分の中に芽生えた気持ちに対して折り合いの付け方などを支援していく。 他者の考えや気持ちを考えたり受け止めたり理解することができるための支援。													
家族支援		モニタリング・親子療育にて実際の療育場面を観察しながら情報共有を行う。 子育てに関する困りごとに対する相談援助。 イベント開催時は保護者やきょうだい児を招いて保護者同士や子ども同士の交流の機会の提供。							移行支援		通学通園中（予定）の園や学校と連携し、支援方法の共有や、統一を図る。 保育所等への移行の際に、情報提供書の提出、会議の出席にて情報共有を行う。				
地域支援・地域連携		サポートブックの作成支援 連携会議出席 子ども部会出席 保育所等・学校への見学・情報共有							職員の質の向上		事業所勉強会（2回/m） 法人勉強会（1回/m） 児童発達支援管理責任者 資格取得のための研修受講 強度行動障害支援者養成研修 受講				
主な行事等		親子療育・夏祭りやハロウィン、節分など、季節ごとの行事を高齢者施設と合同で実施・法人主催の秋のイベント・社会福祉協議会主催の福祉祭りへの参加													

事業所名

こども発達サポートセンターーと

支援プログラム（参考様式）

作成日

7 年

3 月

20 日

法人（事業所）理念		小さな成功体験は、大きな夢への第一歩 子どもたちが自分らしく将来を生きていくために、土台となるroot（根っこ）を育てる関わりを大切にしています。											
支援方針		多職種連携による専門的アプローチ…PT・OT・保育士が連携して、各専門職の視点からアセスメントし、小集団・個別での療育を提供します。 集中と切り替えのコントロールを促す環境設計…構造化された空間の中で子どもたちが安心して行動できる空間づくりを行っています。 情報共有による一貫性のある支援…家庭・保育園等・相談員と連携しより良い支援のための情報共有を行っています。											
営業時間		8 時		30 分から		17 時		30 分まで		送迎実施の有無		あり なし	
		支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	生活習慣や生活リズムの形成支援…睡眠・食事の状況を保護者へ聞き取り、相談助言を行う。SSTの活動を通じて、挨拶や食事のマナーについての理解を深める。 基本的生活スキルの獲得支援…食具の操作に必要な手指機能の向上、トイレトレーニング、衣類の調節や着脱などの、清潔動作についての支援を行う。 室内の構造化や視覚化されたスケジュールにより、時間・空間を分かりやすく伝える。											
	運動・感覚	基本的な姿勢・動作・運動機能の向上…粗大運動（立つ・しゃがむ・ジャンプ・支える・バランスをとる等）を通して体幹の強化・姿勢の安定化を図り身体の土台部分をつくる。その後 微細運動（生活スキルに必要な細かな動き）の発達を促していく 保有する感覚の活用…感覚統合器具を用いて、前庭覚や固有覚・触覚など自分の身体に関するイメージ（ボディーイメージ）の発達を促す。 感覚の特性への対応…運動を通して様々な動きの経験、感覚刺激を行うことで感覚の鈍麻・過敏の凸凹を軽減させていく											
	認知・行動	認知の特性への理解…感覚刺激や感触など、ひとりひとりの好きな活動を保障する。 外的要因や刺激の入力に対する適切な反応や行動の習得…認知の偏りや特性に配慮し、できることを増やしていく。 室内の構造化や視覚化されたスケジュールにより、時間・空間を分かりやすく伝える。 物の概念形成（大小・長短・カテゴリ分けなど）見えない部分の補完など、認知機能の向上のための課題の提供。											
	言語 コミュニケーション	言語…絵本や手遊び、絵カードを使い言葉に触れる機会を増やし、言葉への興味関心を広げていく。 コミュニケーション…表情、声のトーン、聞く・話す順番や距離感など会話のルール 状況や相手の気持ちを理解するための支援（イラストや写真での表情と場面や単語をマッチングするなど）											
	人間関係 社会性	アタッチメントの形成…信頼関係の構築と、安心できる環境設定の中で、受け入れられる経験を重ね、自分の気持ちを表出しても寄り添ってくれる存在がいることを実感できるよう支援していく。 あそびを通じた社会性の発達…動きや言動の模倣を通じて社会性の発達を支援する。 仲間づくりと集団への参加…スタッフが介入することで、周囲の人との関わり方を知る。見立て遊びなどで役割や順番などを理解し行動のコントロールが出来るような支援。 自分の得意なことや好きなこと、苦手や嫌いなことを知り、できる時できない時によらず、自分の中に芽生えた気持ちに対して折り合いの付け方などを支援していく。											
家族支援		モニタリング・親子療育にて実際の療育場面を観察しながら情報共有を行う。 子育てに関する困りごとに対する相談援助。 イベント開催時は保護者やきょうだい児を招いて保護者同士や子ども同士の交流の機会の提供。						移行支援		通学通園中（予定）の園や学校と連携し、支援方法の共有や、統一を図る。 保育所等への移行の際に、情報提供書の提出、会議の出席にて情報共有を行う。			
地域支援・地域連携		サポートブックの作成支援 連携会議出席 子ども部会出席 保育所等・学校への見学・情報共有						職員の質の向上		事業所勉強会（2回/m） 法人勉強会（1回/m） 児童発達支援管理責任者 資格取得のための研修受講 強度行動障害支援者養成研修 受講			
主な行事等		親子療育・夏祭りやハロウィン、節分など、季節ごとの行事を高齢者施設と合同で実施・法人主催の秋のイベント・社会福祉協議会主催の福祉祭りへの参加											